

「センゴク 全15巻」 「センゴク天正記1〜4巻」

宮下 英樹作

日本の戦国時代を題材にした漫画の中で、一番好きな作品がこの「センゴク」です。本シリーズの特徴は、当時の地形や気候などを考慮した独自の歴史解釈と、結果から歴史を論じないというスタンスです。照明も無線も無い戦国時代に戦争をするということ、その時代のヒトの視点から描いていて、学校で習った日本の歴史なのですが、全く新しい物語として読むことができます。

タイトルの「センゴク」は戦国時代のセンゴクではなく、主人公の仙石権兵衛秀久の事。戦乱に巻き込まれ、織田信長、木下藤吉郎秀吉に会い、家来となり、合戦を通じて徐々に世にその名を知られてゆきます。作者は仙石の事を「日本史上最も失敗し挽回した武将」と表します。彼の目を通して信長、秀吉、家康そして明智光秀が戦国時代の狂気と正気の間で戦国武将そして、大名へと変貌を遂げてゆく様子が描かれています。その姿は、歴史上の偉人というより、その時代を必死になつて生きた人間のひとりとして映ります。

このシリーズを読んだのは、大きな失敗をしたときでした。とある合戦で、役に立たず何も戦果を挙げることができなかった権兵衛に、信長がかけた言葉、「武功を立てい」。そのシーンとともに、忘れることができません。

現在は、長篠の戦いが終わり、信長の優位が定まりつつあるところです。まだ先の展開ですが、本能寺の変がどのように描かれるのか、興味は尽きません。

達紀



講談社

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞